

ラテン・ギタリスト、  
かわさきFM「アクセスかわさき6か国語情報」スペイン語担当

イルビン

コージ

# IRVING KOJI (太田孝次) さん

『音楽のまち・かわさき』で、豊かな音楽文化をつくっていききたい

## メキシコ出身

**ア** ルゼンチンで開催される中南米音楽の世界的祭典「コスミン・フェスティバル」でも活躍したイルビンさんは、メキシコ人ギタリストの父と日本人ラテン・ボーカリストの母を持ち、7歳で来日しました。

## 多言語・多文化の家庭の生活は、どのようなものでしたか？

父の方針で、メキシコでも日本でも、家の中ではスペイン語だけで暮らしていました。来日してからは、スペイン語を忘れないために、毎日3時間、メキシコの新聞を読み、わからないことは調べ、筆記体で清書して、音読をさせられました。父は厳しい人で「努力を惜しまず、何をやるにしても一番を目指せ」が口ぐせでした。また、「母親は召使ではないから自分たちでなんでもやろう」と家事も分担させられました。



©丸山 泰敬

## 日本の環境には、すぐになじめましたか？

日本語がよくわからないときには、身を守ろうとしてとった行動が誤解されてつらい経験をしたこともありましたが、でも、少しずついろいろな人とつながることで心のトゲがとれていき、今で

は、相手を思いやる日本語の美しい言葉遣いや、日本人の礼儀正しさが大好きになりました。今、日本に溶け込めずに悩んでいる人や子どもがいたら、直接話をしたり一緒に音楽を楽しんだりして、少しでも力になりたいと思っています。

## ギタリストとしてのスタートは、川崎の路上ライブだそうですね。

5年前に川崎に転居したことが、ギタリストとしても良い転機になりました。路上ライブが数多く行われている川崎には、若い音楽家を育てようという風土があります。このまちで人の足を止めることができるミュージシャンになりたいと思いました。路上ライブを始めると、パンとお茶を置いてくれる人やギター-の穴にお金を入れてくれる人がいたり、ライブハウスやラジオ局の方に声をかけられたりして、次第に活動の幅が広がってきました。

誰が聴いても心地良い、アレンジがきちんと考えられている綺麗な曲が好きです。今は、アンサンブルなどで演奏して、自分がアレンジしたものでメンバー皆が輝いたらうれしいし、それ



川崎砂子会協同組合 武藤理事長と



でも負けないものを持っている、そして、みんなが楽しめる本物の音楽文化をつくりたいと思っています。

## 新年早々、感謝状を受け取られたと伺いました。

はい。「いさご通り街角ミュージック」への貢献に対して、川崎砂子会協同組合(理事長・武藤聡宏氏)からいただきました。

地域や社会に何か貢献ができたか…と思っていたところだったので、心から嬉しかったです。今までのように、一日一日の積み重ねを大切に頑張っていこうと改めて思いました。

会話しぐさにも優しい心遣いにあふれるイルビンさん、取材の後「ギターを弾いてください」とお願いすると、快く演奏してくださいました。川崎市国際交流センターの談話ロビーは急ぎょコンサートホールになり、訪れていた親子連れのみなさんが、イルビンさんの美しいギター-の音色を楽しみました。

(取材・文：編集ボランティア 森千里)

IRVINGさんのブログ <http://profile.ameba.jp/koji777official/>